

## 葉擦れの地

放浪の業は恐れられ、疎まれ

終には「逃亡」という衣を着せられ

もし留まろうとするならば

\*

仰向いた人の目に映るのは  
思いがけず瑞々しい希望に伸び上がり  
すっと立っている鮮やかな緑の涼しい姿

腕枕をして野原に寝転ぶ人には  
空は限りなく広くすがすがしく  
どんな天気にも慈愛を感じることができる

さらにもうひと言が付け加えたいという欲求も  
今はもう何処かへ、いつの間にか歩み去り  
ただ深々と息を吸い込むことが心地良い

うちさわぐ草の海のささやきは慰めを越え  
人は切なさを、そして微笑をも越えてゆく

ここは葉擦れの地 再びの出発

(1984.4.17)